

新東名高速道路 伊勢原大山IC～新秦野ICが開通

2022年4月16日に開通した伊勢原大山IC～新秦野IC間約13km間は、富士山、箱根山、丹沢山地に囲まれた比較的標高の高い平坦地形となっていて、丹沢山地の山裾の丘陵地をトンネル及び土構造、高架構造で通過する構造となっています。本区間の道路の区分は、完成(6車線)時には第1種第1級、設計速度120km/hですが、整備計画では、暫定的に4車線(第1種第2級)として整備する予定です。また同日には新秦野料金所と国道246号を結ぶアクセス道路も完成しています。

同日に開通した秦野丹沢スマートICは、24時間運用のフルインター形式で車長12m以下のETC車載器を搭載した全車種が対象です。

今回開通した区間が整備されることで、以下のような広域的な交通利便性向上、産業基盤の強化、観光資源を活用した地域活性化、救急・救命サービスの向上、災害時の支援体制などの効果が期待されています。

(1) 沿線地域の観光活性化

沿線地域の1つである秦野市では、登山で人気の丹沢大山国定公園や県立秦野戸川公園など多様な観光資源を有しています。当該区間の開通により、沿線地域の観光地へのアクセス性が向上し、観光活性化への寄与が期待されます。

(2) 物流効率化による生産性向上と企業立地の促進

当該区間周辺の工業団地から都心方面への所要時間が短縮され、生産性向上が期待されます。また、当該区間のIC周辺地域では、さらなる企業立地を見据え、戸川土地区画整理事業の検討が進んでおり、企業立地

の促進による地域経済の活性化が期待されます。

(3) IC周辺のアクセス性向上とリダンダンシーの確保

当該区間の開通により、IC周辺のアクセス性が向上し、都内から秦野市周辺への1時間カバー圏域が、人口集中地区で拡大します。また、東名 伊勢原JCT～大井松田IC、国道246号並行区間の通行止め時の代替路として機能することで、リダンダンシー(冗長性:予備の手段)の確保が期待されます。

現在、新東名高速道路の全線開通に向けて、残り区間である新秦野ICから新御殿場IC間の建設事業が鋭意進められています。



羽根トンネル上空から富士山を望む

